

QC 7つ道具を活用した品質向上の実践法

品質管理と改善活動の進め方

研修のねらい

製品の機能・用途の複雑化や取引先の求める品質レベルの高度化が進む中、製造業が多様化するこれらのニーズに柔軟に対応していくためには、全社的な視点から品質管理活動を強化して、顧客満足や工場の生産性の向上につなげていくことが不可欠な取り組みとなります。

本研修では、品質管理における考え方やQC 7つ道具を中心としたさまざまな手法について、事例やグループ討議を交えて理解した上で、自社製品の特徴や課題に最適な品質管理を進めていくために、その具体策や実践プランを検討します。

研修のポイント

- ✓ 品質管理の手法を体系的に解説します
- ✓ QC 7つ道具を活用した品質管理の取り組み方が学べます
- ✓ 自社製品の課題に対応した品質管理活動の実践プランを検討します

研修期間

2026年 10/28(水) ~ 30(金)
全3日間 (21時間)

対象者

生産現場の管理者・リーダー・作業担当者等

- ・品質管理により生産性向上に取り組みたい方
- ・生産現場の改善手法を学びたい方
- ・現場の作業効率化・生産性向上を図りたい方

定員 ▶ 25名

受講料 ▶ 32,000円(税込)

※宿泊費は含まれません。
※お申し込みが多数の場合、定員を変更させていただく場合がございます。

会場

中小企業大学校仙台校
宮城県仙台市青葉区落合4丁目2-5

月日	時間	科目	内容
10/28 水	9:30 ~ 17:30	品質管理の基礎知識	製造現場における品質管理の基礎知識と概要について学びます。 ・製造業が求められる品質とは ・品質管理の基本手法と重要性 ・QC的な考え方で進める品質管理 ・品質管理を全社的に取り組むポイント
10/29 木	9:30 ~ 17:30	QC7つ道具を活用した品質改善活動の進め方(演習)	品質管理の代表的手法として、QC 7つ道具(特性要因図、パレート図、ヒストグラム、管理図、散布図、グラフ、チェックシート)の作成方法や活用法について演習を交えて学んだ上で、不良品発生時の原因分析や改善策の立案と実行までの流れについて具体的に学びます。 ・QC 7つ道具の見方・つくり方 ・QC 7つ道具と新QC 7つ道具 ・QCストーリーによる改善活動の進め方 ・不良発生時の対応 ・なぜなぜ分析と原因究明 ・小集団活動の進め方と注意点
10/30 金	9:00 ~ 17:00	自社の品質管理活動の検討(演習)	QC 7つ道具を活用した品質管理における問題解決の具体的な進め方について、自社演習を交えながら実践的に学びます。 ・QC 7つ道具の複合的な使い方 ・自社の品質管理における課題の整理 ・自社製品の品質管理の実践プランの検討

※カリキュラムは一部変更する場合がありますので予めご了承ください。

講師紹介 (敬称略)



一般社団法人中部産業連盟 東京事業部 経営革新コンサルティング部
菊地 俊之 (きくち としゆき)

2003年明治大学大学院理工学研究科機械工学修了後、日産自動車株式会社に入社。生産技術部門で品質改善・NPSを実践するほか、新規プロジェクトの工程設計に従事。その後2018年にPLASTIC OMNIUM株式会社に入社し、自動化設備の導入および改善活動などに携わる。

2021年に中部産業連盟に入職し、5S・VM(目で見る管理)活動の推進支援生産管理改善研修、課題解決研修、現場OJT研修等を中心に講義を行っており、JICA協力事業(インド派遣)カイゼン講師を担当する。

